学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白１丁目５番１号
黎明会館316号室
電話 03（3986）0221内線2607
http://gakushuin-press.org/
発行・編集人　川島旺洋
年間500円

学生ら被災地へ赴く

再興へ一致団結

7月17日から23日にかけて、「学習院東日本大震災復興ボランティア」が実施された。本学、女子大の学生及び大学院生と教職員を含めた約70名が参加。学生達は主に瓦礫撤去や施設の清掃、ツツジと桜の苗の植樹、ハンドセラピー、炊き出しなどの様々な活動を行い、被災地の復興支援に精を出した。

（左上）瓦礫を手押し車で運んでいく
（左下）多くの方々が訪れた炊き出し
（右上）ハンドセラピーをする学生
（右下）丹念に木を植えていく

このプロジェクトは本院教職員らの発案で企画された。さらに本ボランティアに協賛する有名企業や桜友会から、多くの物資援助がなされたことにより、実現したのである。今回は岩手県久慈市、宮古市、野田村を訪問。なお、現地では地元の災害ボランティアセンターの指示を仰いでの活動となった。

久慈市侍浜町にある地下水族館「もぐらんぴあ」にて、初日の作業が始まった。曇り空の広がる館外では瓦礫を運び、館内では薄暗い照明の下で床に散乱した泥をシャベルですくい上げ、水で流していく。さらに、その後は同市内の巽山公園で、地元造園業者の方と協力し、様々な品種のツツジを植える。参加者の中村紀一さん（法1）は「地面が固く、穴を掘るのにとても苦労しました。それでも、現地の方々から喜びの声を頂いた時は、本当に嬉しかったです」と述べた。

次の訪問地である宮古市津軽石では、小雨の降る中、市街地で側溝の清掃を行った。また、同市の災害ボランティアセンター「グリーンピア三陸みやこ」では、アロマハンドセラピーを実施する。アロマオイルを使って腕のマッサージをし、避難所生活で心身に溜まった疲れを癒していく。そして、マッサージの間に被災者の方々は学生達と対話をし、避難所での悩みや復興に対する思いなどを打ち明けてくれた。

最後に訪れたのは、岩手県の沿岸部に位置する野田村。ここでは、ハンドセラピーや村内の瓦礫撤去、さらに近隣の住民を対象に炊き出しを行った。学生達はカレーを提供し、多くの人々から感謝の言葉を受ける。この活動を終えると、同村の林野へ移動し、今後の復興を願いながら桜の木を植樹した。この活動をもって、本ボランティアは幕を閉じる。

今回の企画を終えて、プロジェクトリーダーの上田隆穂教授は「学生達は、力を合わせれば、どのようなことも乗り越えられると実感できたでしょう」と語った。日常と異なる環境の中で活動したことによって、本院生は心身共に成長したであろう。なお、秋期には本ボランティアの報告会が開催される予定だ。本院生らの活動のレポートを発表する報告会にぜひ期待したい。

学習院　夏の風物詩
オープンキャンパス開催

7月24日と25日の二日間、本学にてオープンキャンパスが実施された。累計来場者数は7113人。昨年と比べて、参加者は若干の増加傾向にあり、本学に対する受験生の関心の高さがうかがえる。本年度は、全学部・全学科にて模擬講義や学科説明会、実験等を行った。また、教職員による個別相談コーナーを設けるなど、本学の教育力をアピールする充実した内容であった。

学生ホールで質問、相談をする参加者

本企画を運営しているのは、教職員だけではない。学生達も個別相談コーナーや参加者を連れて構内を案内するオープンキャンパスツアーを担当し、この催しに貢献している。参加者にとって、活き活きとした大学生の姿を間近で見ることは、大変良い刺激となっただろう。

昨年度から、スタッフのユニフォームの統一や見やすい構内の案内掲示を行ってきた。また、来場者が各種イベントに参加しやすくなるよう、「オープンキャンパスガイド」を作成。これは、タイムテーブルやキャンパスマップ、模擬講義の内容などを掲載したものだ。これらの工夫は「来場者にとって分かりやすく」という本学のホスピタリティの表れである。

また本学の心配りは、都合により来場できなかった方々にも行き届いている。当日の雰囲気を感じることができるよう、学習院TV用にビデオを製作。これによって、今年度のオープンキャンパスで行った内容をホームページで確認できる。加えて、先生方や在学生のメッセージなども閲覧することが可能だ。

なお、10月22日にもオープンキャンパスが開催される。高校生は授業期間中のため、開始時間をずらすといった配慮を行った。さらに本学の一般入試対策用プログラムとして、予備校講師による入試の対策講座を実施予定。また、当日は受験生に、一般入試の願書を無料で直接配布できるよう準備が進んでいる。未来の後輩が、多く参加してくれることを願う。

科学の面白さを堪能

9月2日、南7号館の実験室にて、学習院初等科5年生を対象とした「一貫教育～理科研究体験」が開催された。この体験授業は学習院の一貫教育プログラムの一つであり、初等科の児童に理科の面白さを体感してもらうために理学部が企画し、今年で11年目を迎える。

今年度の催しとして物理学科は、液体窒素を使用した実験を、化学科では、花火や入浴剤など身近にあるものを実際に作り、講義を実施。また生命科学科は、ゾウリムシの観察やブロッコリー遺伝子ＤＮＡを単離する実験を行った。なお当日は台風接近の心配があったが、滞りなく約80名の児童たちが科学の世界を満喫した。（郡）

再選にあたって
将来の大学語る

8月3日に開催された学習院評議員会において、院長に波多野敬雄氏（現学習院長）が再任した。また、7月5日に行われた次期学長選挙において、学長に福井憲彦氏（現学習院大学長）が再任した。

院長より再任の挨拶

「私は幼稚園から高等科までの十四年間を学習院で過ごし、それだけに私は母校を愛し、良い学校にしたいと念願しています。現在学習院は多難な時期を迎えました。学習院が有名私学との競争に勝つためには、『学習院らしさ』を身につけることが必要です。具体的には品格あるおおらかさです。また、国際性のある人間になるために、外国へ行きましょう。世界を知り、外から見た日本の姿を知ることを願っています」。

学長より再任の挨拶

「学長としての基本姿勢は変わりません。本学の学生には激動する現代の状況に対して、主体的に対応できるようになってほしいです。そのために、学校の環境の整備に全力を尽します。学生諸君は学校生活を楽しみつつ、広い視野、たくましい創造力、豊かな感受性を磨いてください」。

PROFILE
波多野敬雄（はたの・よしお）
学習院女子大学客員教授、学習院女子大学長等を歴任して、06年より現職。
福井憲彦（ふくい・のりひこ）
本学文学部史学科教授、本学文学部長等を歴任して、07年より現職。

明窓浄机

この夏、ある教授の研修旅行に参加させていただいた。行き先は常滑焼で知られる愛知県常滑市である。ここのやきものは江戸後期からある急須が有名で、近代には土管を多く生産した。しかし最近は、土管の知名度に匹敵する製品がないという。陶器は大事にすれば長年使えるため、そう頻繁に購入されるものでもない。この街は今、いかに発展していくかについて頭を悩ませている▼旅行中、やきものに携わる方々とお話する機会を得た。研究・展示施設の職員、街を案内するボランティア、急須職人と肩書は様々である。彼らは皆、常滑の未来を熱心に考えていた。その姿に感化された私も、未熟ながら良い案がないかと考えてみた。だがこれが一向に浮かばない。今まで何を学んできたのか、と少し落胆した▼大学で知識を得ても、活用できなければ無意味だ。それは何もその道の専門家になるというような、直接的なことのみを言うのではない。学ぶ分野は重要ではないのだ。習得した知識から、社会のためになるような提案ができることが大切なのだ▼「常滑は大丈夫だと思う。一生懸命に街のことを考えている方々がいるから」帰りの電車で先輩が言った。まずは今の勉強に力を注ぎたい。それが将来の発想力の源となり、課題を克服する足掛かりになると信じている。（り）

学習院研究最前線

学問研究の「いま」

「宇宙ビジネスのための法律作り」
法学部法学科　小塚荘一郎教授

PROFILE
東京大学法学部卒業。千葉大学法経学部助教授、上智大学法学部助教授、同法科大学院教授を経て、10年より現職。私法統一国際協会（ユニドロワ）コレスポンデント、比較法国際アカデミー準会員。

◇　◇　◇

先生は宇宙法の研究をされています。今回は、その内容について伺いました。（取材・構成　松江祐実）

未知の世界へ

宇宙法とは、国や団体が行う宇宙活動に対して、適用される法律のことをいう。先生はその中で、宇宙をビジネスとした際に生じる法律問題を扱う「宇宙民事法」を専門としている。一体、どのような経緯で研究を始めたのだろう。

「元々私は商法の研究者ですが、ユニドロワの会議に列席していた時に、事務局の方に宇宙関連の条約を作るため、日本からも参加者を推薦してほしいと求められました。そこで、総合商社や人工衛星を扱うメーカーなど様々な企業の方を訪問しました。しかし、会議に出ていただける方がいなかったため、私が参席することにしたのです。次の出席者が現れるまでと思っていたのですが、10年以上も研究を続けています」

新しい市場を創造するために

先生は現在、宇宙資産議定書の完成を目指している。これは、担保契約をして得られる権利と、リース会社に商品を購入してもらい、そこから借りて賃料を支払う契約による、リース会社の権利。加えて代金の完済まで商品の所有権を売主が留保する権利を、国際的権益として設定できる上、宇宙資産取引には、財の貸し借りがついて回ります。国際的権益が設定されると、貸し出した資金を回収できる可能性が今までよりも高くなるので、他国よりも有益な取引を行うことができるでしょう。そうして、宇宙関連の市場の成長に大きな効果が期待されます」

無限に広がる夢を求めて

日本の特色を育てる

他にも先生は、宇宙活動法という、民間企業などが宇宙活動を行う時の規則を定めた法律を作る委員会にも参加している。これは、日本の宇宙ビジネスに国際的な競争力をつけようとするコンセプトの下で形作られた。そして、日本の宇宙産業が他国と比べて不利にならないようにする思いも込められているのだ。

「日本の経済の強みは、ものづくりの技術と、きめ細やかなサービスであると考えています。この法律が施行されることで、日本独自の強みを活かしたビジネスが今後現われていくことでしょう」

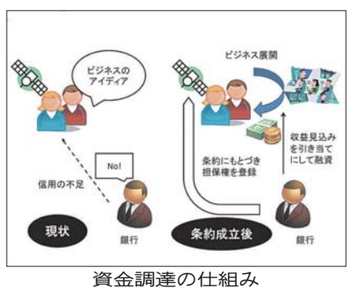
また、宇宙産業に着手している大手企業をバックアップしながら、中小企業もその市場へ参入できるように、手助けをする必要もある。その二つを両立させることは容易ではない。だが、こうした援助により、日本の産業は発展していくと先生は言う。

宇宙民事法の将来は

白紙の状態からスタートした先生の研究は、私達の生活にも影響を与えている。しかし、まだまだ課題は山積みのようだ。

「宇宙民事法は体系がほとんどなく、問題も多いです。私はそれらを解決して、この法律を勉強したい方々のため基礎となる枠組みを確立したいです。宇宙産業を視野に入れている企業や学生ベンチャー企業が、私を訪ねてくることもあるので、今後もこの法律の重要性は高まっていくでしょう。その反面、宇宙活動を行っている国はあまり見受けられません。従って、諸国に宇宙ビジネスを展開させていく必要があると思います。もし、学生の皆さんが私の授業に出て、発言をしてくだされば、新しい発見が得られるのでぜひ積極的に参加してほしいですね」

これからも先生は、宇宙経済を商法や民法の視点から、新たな可能性を見出していくだろう。それは、私達が経験したことのない、ロマン溢れるものに違いない。



資金調達の仕組み

情報特急便

マスコミ・広告セミナーガイダンス「マスメディアが果たすべき役割とは」
日時：9月28日（水）18時～（90分）
場所：西5号館B1
対象：1～3年生及び大学院生
講師：松丸慶太氏

公務員ガイダンス
日時：10月7日（金）18時～（90分）
場所：西5号館B1
講師：㈱東京リーガルマインド

第1回SPI2・一般常識テスト
日時：10月8日（土）13時～16時
場所：西5号館B1・201・202教室
内容：就職能力試験、就職常識試験
対象：学部3年生・M1年生（低学年の学生も受験可）
費用：500円

第12回就職セミナー「面接対策セミナーガイダンス」
日時：10月15日（土）13時～（2時間）
場所：西5号館B1・201・202・302・303教室
対象：3年生及びM1年生
講師：本学OB・OG

紙面紹介

2 多様化する食品宅配サービス

3 疑問を解決 勉強お悩み相談室

4 ラクロス部快勝

東洋大との関東学生リーグ第2戦が行われた。前半は苦しい展開となるが、根気良く試合を運び、6－2で本学に軍配が上がった。

テンプレ

福島、大阪、高尾山。今年の夏は足を伸ばして羽伸ばし。長かったように思えた休みも、あっという間でした。新体制初の編集作業は喜怒哀楽の連続。辛くても毎日予定があったぞ？あ～、リアルが充実！（番）

食品宅配サービス

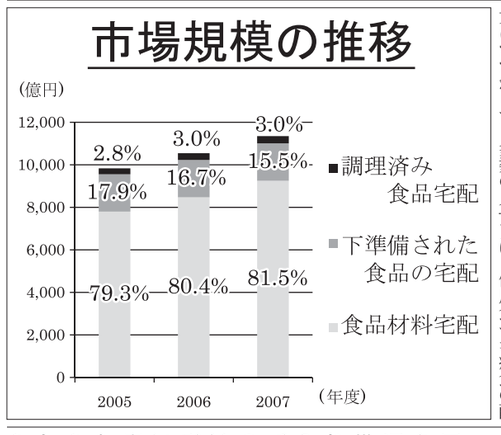
家庭環境の変化や高齢化社会などを背景に近年、需要の高まっている食品宅配サービス。だが、その実情をご存じない読者も多いのではないか。そこで、本特集を読んで身近なものにしよう。

規模拡大の背景

食品宅配サービスと聞くと、寿司の出前やピザの配達を連想する人が多いかもしれない。だが、このサービスは多様で、牛乳配達などの食品材料宅配や、弁当や惣菜が届く調理済み食品宅配がある。その他にも、皮むきやカットなどの下準備がされた食材を献立と共に届けてくれるサービスまで見られる。一人暮らしの学生の強い味方となるだろう。

それでは、どれほどの人がこのサービスを活用しているのか。年齢・男女別の利用者内訳を、総合企画センター大阪がまとめている。それによると、30代女性の利用率が22%と最も高く、次いで60代女性が19%となっている。意外にも、学生を含む20代も男性12%、女性17%とあって少なくない。最も低いのは50代男性だが、それでも10%を占め、大差ない。世代や男女にかかわらず、多数の人が食品宅配サービスを生活に役立てている。実際、利用者人口は着実に拡大している。2006年度にはついに、外食やファーストフードなどを除く市場規模が1兆円を超えた。

この成長には、どのような社会的背景があったのだろう。1970・80年代には、宅配便などの物流が発達した。仕事や家事に忙しい共働きの夫婦や核家族の増加も、市場拡大の主な要因となった。90年代になると、高齢化や女性の社会進出の加速によって、買い物に行くことのできない人が増える。そのため、食品宅配サービスの利用が促進された。さらに近年では、荷物を運ぶことが負担となる高齢者の増加により、市場は一層の発展を遂げている。



ここで、分野別の市場規模を見てみよう。まず、馴染み深い食品材料宅配は、全体の81・5%を占め、8546億円となっている。また、調理済み食品宅配は340億円で、両者共に右肩上がりの成長を続けている。対して、下準備された食材の宅配は伸び悩み、例年とほぼ横ばいの1756億円となった。さらに最近では、健康食や治療食の配達が注目を浴びている。この分野が市場全体に占める割合は低いが、徐々に高くなっている。食や健康への関心の高まりを受けて、今後も利用者の増加が見込めそうだ。

食品宅配事業はこの先も発展していくだろう。これは、女性の社会進出や少子高齢化の進展、インターネットの普及などが背景となっている。そのため、私達にとっても身近だ。利用したことのない人も、このサービスの存在を頭に留めておいてほしい。（山口栞）

健康的な生活の秘訣

食品宅配業界を経済の点から見てきたが、実際にどのようなサービスがあるのだろうか。普通の出前とは一味違う長所を持つものを紹介しよう。

食品宅配と言えば生活協同組合、通称「生協」が有名である。出資者によって運営されている非営利の組織で、利用者は組合員となり入会時に出資金を支払う。このお金は退会時に全て返却される。生協の食品の宅配方法は様々だ。一つは各家庭へ戸別に配達する形式。乳幼児がいて買い物に行きづらい家庭や、お年寄りにお薦めだ。このような世帯に対して料金の割引を行っている組合もある。もう一つは地域でグループを作って一定の場所に食材を届けるタイプだ。近所の家庭と新たに班を作るか、既存の集まりに参加することで始められる。また、頼んだ食材を生協の施設や提携している店で受け取ることができる団体もある。生協の魅力は食品の情報が明示されていることだ。農作物や畜産物の生産管理を行い、その過程を公開するという、透明性の高い運営が行われている。

そして近年は、多くの企業が食品宅配事業に参入し始めている。各社が消費者の需要に合わせて様々な取り組みを行っているのだ。

農薬に不安を感じる人にお薦めなのが、有機・無農薬野菜の宅配だ。有機野菜とは、化学肥料や農薬を全く使っていない農産物のことである。こうした作物には「有機JASマーク」がついているので購入の際に目印となるだろう。そして、無農薬と表示されている農作物には、化学物質が極力使用されていない。この事業を展開する会社の中には、栽培方法に関して独自の基準を設けているところもある。

また、食の安全を気にする人向けには、合成添加物を一切使用していない食品の宅配が展開されている。何かと話題になる食品添加物をできるだけ摂りたくないと考えるならば、こうした商品はその一助となるだろう。

毎日バランスの良い食事をしたいのならば、数食分のお弁当が送られてくるサービスを利用すると良い。カロリーや塩分を控えた商品もあり、ダイエットをしたい人だけではなく、糖尿病や生活習慣病の患者にも活用されている。実際に、日本糖尿病学会から有用性が認められた商品や、医療機関と提携している企業もあるのだ。安心して日々の食事が楽しめるようになっているのである。病気の予防のために利用しても良いかもしれない。

日々どんな食事を作るかに悩んでいるのなら、夕食の材料をレンピと一緒に配達してくれるサービスが合っているだろう。半分調理したものを送ってくれるタイプもあり、料理が苦手な人でも使いやすいはずだ。忙しくて調理時間を短く済ませたい時にも丁度良い。また、契約の形態も一つではない。継続的に食材を届けてもらう方法もあるが、一日分だけ注文することもできる。自分の都合に合った選択が可能なのだ。

このように、食品宅配サービスは非常に多様なのである。普段の生活と照らし合わせて、自分に一番ふさわしいものを利用していきたい。（久木元香織）

食品宅配事業の実態に迫る

これまで食品宅配サービスの市場動向や発展していく背景、その種類について述べてきた。多種多様な形態があり、私達はその便利さを享受できることをご理解いただけたであろう。このことを踏まえ、今後の食品宅配事業はどこに向かうのか。メイプルフーズ株式会社の藤江敬氏、伊藤雅通氏、森しのぶ氏にお話を訊いてみた。

最初に、どういった人がサービスを利用しているのか尋ねると、「お客様の半数近くは、40代から60代の糖尿病などの生活習慣病を患っている方です。近頃は、健康に気を配る20代から30代の方が増えています。その他に一人暮らしの高齢者や、単身赴任の方が多いですね」と答えてくれた。栄養価の高い食事を作るのには、それなりの時間と手間が掛かる。このサービスによって、体に良い食事を手軽に得られるので、幅広い世代から利用されるのも分かるだろう。

では、多くの需要に応えてどのような工夫をしているのだろうか。「ダイエットを目的としている20代の若者からお年寄りまで、一つの商品で対応できるようにしています。そうすることで、効率的な製造が可能となります」とのことだ。

懇切丁寧に質問に答える伊藤氏

その分を品質の優れた食材の仕入れや、高齢者に配慮した料金設定などで、還元する。元来、ボランティアとして自治体の補助金を受けた運営が多かった食品宅配。このような取り組みで、ビジネスを発展させたようだ。また、厚生労働省が定めた栄養摂取基準がある。それに則り、手作りで微調整をしながら調理していく。その過程では「量や味つけなど、お客様の要望をできるだけ取り入れています。加えて、料理の専門家の意見を仰いで、次のメニュー作りに活かしますね」と語る。こだわりを持って美味しさを追求しているそうだ。その上、実際に送られてくる商品を見せてもらうと、ヒマワリの花が添えられていて心が温まる。毎日受け取りたくなるサービスの一環だという。

次に、持病のある人や買い物難民などを支援するサービスとして、気をつけていることについて話をしていただいた。「糖尿病の方であれば、一人ひとり栄養の摂取量を相談します。孤独感から日頃の思いを打ち明ける方もいますね。親身にコミュニケーションを取ることが大切です」。心の拠り所となるように、利用者の気持ちを考慮することを心掛けている。しかし、配達された食事ばかりでは作るまでの手順がなく、どうしても単調で味気ないものになってしまう。そこで、季節に合わせて料理の種類を増やし、買い物をしなくても、楽しんで食べてもらえるようにしている。消費者に対する心遣いが、メニュー作りの場面でも感じ取ることができる。

それでは、今後の食品宅配サービスの役割をどのように考えているのだろうか。「最近は、高齢化が進み、買い物さえ大変な方が増えていますね。栄養不足にならないために、健康的な食生活を誰もが維持できるように手助けする仕事が使命だと思います。そのために、より良いものを作っていきたいです。そして、私達の試みが少しでも支えになってほしいですね」と伊藤氏は温かいメッセージを最後に残してくれた。

宅配物が届き、箱を開けると、中には食品だけでなく送る側の思いやりも詰められている。人との関わりが薄くなりつつある現代。温もりあるサービスは私達の心を繋ぎ、これからも宅配事業は注目を集めていくだろう。（巻口直美）

白宅でグルメ

初めて食品宅配サービスを利用する方は、注文に手間取ることもあるだろう。そこで、手元にチラシがなくても簡単に購入できるインターネット上での販売について紹介する。

食品宅配を取り扱う会社は多数ある中、今回は調理済みの食品を販売しているサイトを用いた。ホームページを開き最初に驚かされたのは、食品の種類の豊富さだった。主菜だけでもハッシュドビーフのような本格的な一皿から、肉じゃがを代表とする家庭料理まで多彩な品目を揃えている。他にもパーティの定番であるホールケーキなどもあるので、普段の食事以外でも活躍してくれるだろう。

しかし、これほど種類が多くては商品を選ぶだけでも一苦労だ。そんな時は検索機能を活用しよう。食材名で探すことはもちろん、カロリーや塩分、価格などの細かい条件を指定することも可能だ。偏った食生活に陥りやすい学生や、ダイエットに励む人の役に立ってくれるだろう。また、アレルギー物質の表示もあるので、安心して食べられる。

今回の注文は、「ブイヨントマトソースか。

ソースのかかったハンバーグの他に、甘みのある野菜のソテーと和え物の三品だ。栄養バランスが考慮されていると同時に、彩り鮮やかな組み合わせでもある。味つけは低カロリーであることを感じさせない深みのある仕上がりだった。また、長所は味つけや栄養だけではない。調理済みであるため、皿に盛りつけて温めるだけで良く、受け取ってからすぐに食事を始められる。さらに、調理器具を必要としないので、洗い物が少なく済むことも一人暮らしをしている学生には嬉しい限りである。

実際に利用すると、買い物の手間と時間が掛からないことに加えて、味や健康への配慮など食事への総合的な工夫が魅力的だった。食に関するサービスが数多く存在している時代の中で、自炊とも外食とも一味違った食品宅配を体験してはいかがだろう。（山口春樹）

記者の眼

良識に従った行動を

真実を知る、このことは容易に見えて困難である。その妨げとなっている要因として、まず国民の性格が挙げられる。深刻な話題になると、人々は反射的に目を背けてしまうのだ。理解するのに専門知識が必要となる環境問題などを避け、バラエティー番組など単純に楽しめる分野へ走ってしまうことは稀ではない。さらに、真相から遠ざけてしまう原因は、テレビを中心とするマスコミの報道にもある。事件の概要は伝えるが、取り上げるべき重要な点を意図的に触れないことにより、視聴者の関心を薄めてしまうのだ。

この二つの要素は、福島第一原子力発電所の事故に対する私達の行動にも、如実に表れている。その中でも東京都の放射線量は、考察すべき格好の例であろう。福島県で起きた問題であるため、他人事のように捉えてしまい、東京にはほとんど影響がないと考える人もいるに違いない。しかし、3月15日に事故以前と比べて20倍以上の放射性物質が飛散していたことをご存じだったであろうか。このゆゆしき事実は、マスコミではほとんど報じられず、「直ちに健康に影響を与える値ではない」という言葉のみが先行している。このことは報道機関だけではなく、真実を見つめなかった人々の側にも問題があるだろう。

鋭敏な判断力の必要性

震災から半年が経ち、世間の大多数は以前の生活に戻ったかのような日々を過ごしている。しかし、その日常は錯覚であり、実際は真実を直視していないだけではないだろうか。例えば、政府が福島県内の15歳以下を対象に、放射性ヨウ素の甲状腺被ばく検査を行った結果、44・6%の子供達に被ばくが確認された。さらに、牛肉や茶葉などから基準値を超える放射性物質が検出されるなど、漏出した放射能は私達の暮らしを変貌させている。

では、この暗たんとした実態を意識的に避けている人々は、どのように真実を追求すれば良いのか。肝心なことは、決して目をそらさず、しっかりと本質と向き合う姿勢だ。私達若者は放射線の影響を受けやすく、それによる発がんのリスクも高いと言われている。このように、今回の出来事は身近であるにもかかわらず、多くの人は事態の重苦しさのために現実から逃げている。また、能動的に問題を学ぶことも不可欠だ。そこで得た知識を基に、メディアが発信する情報を取捨選択し、批判的に観察しなければならない。なぜならマスコミの報道は、単なる事実の羅列から主観性が潜む内容まで多種多様であるからである。これらを見分けるために、自ら進んで基礎知識を身につけるべきであるのだ。

つまり、多角的な視点で情報を吟味することによって、今回の事故でも個人レベルで対策を講ずることが可能となる。確かに、実際に行動に移すとなると、ためらってしまう人々が多い。しかし、今だからこそ、外部からの様々な情報に対して冷静な眼差しを向けなければならない。それが真実へ辿り着くための近道であろう。

（政治学科2年　飯村渉）

Tell Me! 偉人 重光葵 Lesson 13

生涯現役の外交官

「日本は東西の架け橋となり得るのであります」。これは、戦後の日本が歩むべき道を表した言葉だ。国連総会でこの演説を行った隻脚の男性こそが重光葵、その人である。

彼は、戦前から戦後にかけて活躍した外交官・政治家である。1932年に起きた上海事変の時には、次席委員として停戦交渉に寄与した。当時の日華関係は極めて険悪であり、国内の軍部との兼ね合いも考慮する必要があったため、交渉は困難だった。それでも葵は粘り強く調整を行い、ついに停戦も調印式を残すのみとなった時、事件は起こる。中国で昭和天皇の誕生式典が催された際、式場に爆弾が投げ込まれ、多数の死傷者が出たのである。百数か所の傷を負ったにもかかわらず、葵の中には、停戦交渉はほとんど終えているという安堵感があった。その後病院で、葵は苦痛に耐えながら停戦協定に調印し、数時間後には右足の切断手術を受けた。

こうして右足を失った彼は、その後も日ソ交渉全権を務めるなど、平和外交に尽力する。そして、連合国への降伏時には、日本代表として調印式に出席する。平和を実現するためであるが、誰もが屈辱的であり、避けたいと考えた全権の役目を引き受けたのだ。葵は悲惨な戦争を終わらせるために、命懸けで調印式に臨んだ。

念願叶って日本が国際連合に加盟した時には、壇上で演説をするという大役を果たす。その翌年、心臓の持病を押しての激務がたたって、彼は生涯を終える。日本のために人生を捧げ、外交活動に従事した重光葵。難題に真摯に取り組んだ彼の生き方に、畏敬の念を抱かざるを得ない。（山口栞）

編集後記

生活協同組合や企業による食品宅配事業は、年を追うごとに市場規模を拡大している。しかし、詳しい内容や特質については、あまり理解していない学生が多いのではないだろうか。そこで本企画を立ち上げ、この分野について見識を深める機会を設けた。

食品宅配サービスは、豊かで安全な生活を得る手段の一つとなる。近頃は原発事故の影響を心配する声が挙がり、各企業は独自に食品検査を始めた。要望に的確に対応し、消費者に安心を届けてくれる点が、このサービスの一番の長所かもしれない。ぜひ今回の特集を参考にして、利用してみてほしい。魅力が実感できるはずだ。（久木元香織）

企画　久木元香織
構成　石塚貴之
レイアウト　巻口直美
取材　山口栞
山口春樹

虚言少年

大人びた小学生

京極夏彦

青春は、とびきり輝く時代と言っても良いだろう。だが本書の主人公は、無恥ゆえに愚かなことをする時期だと断言する。そんな屁理屈をこねる彼が聞いた滑稽な話や、厄介事に巻き込まれた話など、7つの短編で本作は構成されている。

彼は内本健吾。矢島誉と京野達彦という2人の友達がいる。彼らとの出会いは最初の物語でそれぞれ語られる。健吾は、下品なことばかり言うのにモテたがる誉が面白く、打算的な感情から共に行動していく。それを続けるうちに、いつの間にか本当に親しくなる。片や、京野との仲は、偶然2人きりになった時の「嘘吐きだろ」という唐突な一言から始まった。今まで交際がなかったにもかかわらず、健吾の本性を見抜いていたのだ。こうして彼らは親交を深め、様々な出来事を可笑しな視点から観察するようになる。

2つ目の話『たった一票』は、生徒会長の突然の転校で、後任を決めることになり、誰がふさわしいかを健吾たちで予想する。続く『月にほえろ！』は、お芝居の脚本を書く羽目になった健吾が誉と京野に助けを求める話。そして、運動会では何としても勝たねばならないという考え方に異議を唱える『団結よせ』では、捻くれた目線で捉える京野が必見だ。

どの物語でも、健吾たち3人と他の小学生の物の見方の違いが読んでいて飽きない。また、他愛のない物事でさえ愉快に感じられる童心の描写も、『虚言少年』の魅力だ。

私たちはもう幼少期の感性を失ってしまったかもしれない。しかし、数々のエピソードが読み手の胸に何かを去来させるだろう。本書を読んで、ぜひ様々なことを懐古して思い出に浸ってほしい。（明）

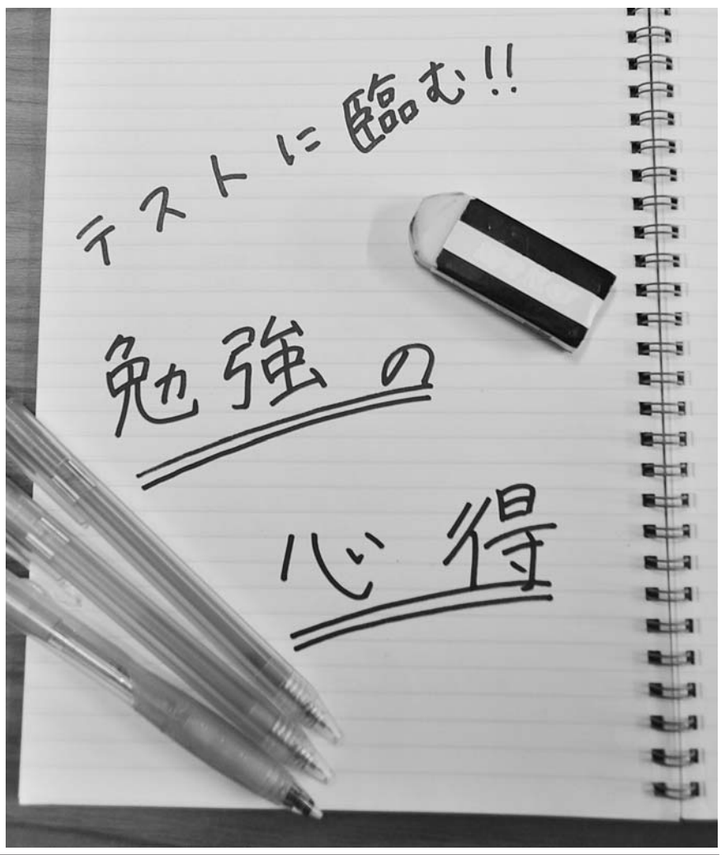
（京極夏彦著　集英社　税込1785円　2011年）

読書

秋めく風が涼しく勉学に最適なこの季節。いつも以上に学問に打ち込みたい。しかし、夏休みの余韻を引きずってだらだらと勉強をし、テスト前に慌てて一夜漬けをする人も多いのではないだろうか。今回は、そんな学生たちに向けて、「集中力」「記憶力」の高め方と共に実用的な学習方法を紹介したい。

熱心に修め頭に収める

物事に取り組む際、私たちは集中しようとするはずだ。とりわけ、勉強をする時はその傾向が際立つ。ここでは、そんな集中力の仕組みを見ていこう。



そもそも自分には集中力がないと嘆く人がいるだろう。けれども、そのように考えるのは杞憂だ。例えば、遊びや趣味には誰もが夢中になるように、集中力は全員が持っているのである。ただコツを忘れてしまっているだけなのだ。

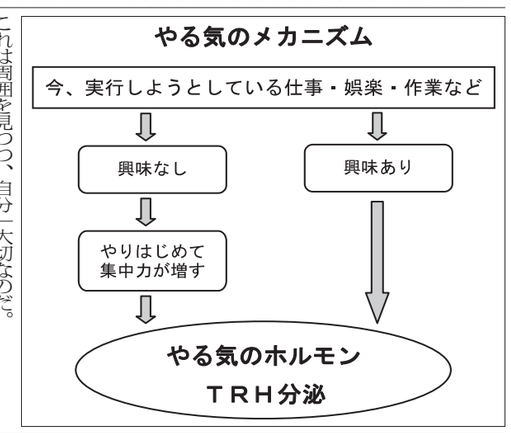
それでは、集中力を高める秘訣とはどういったものなのか。それに貢献するのが「TRH」という脳内物質だ。これは、別名『やる気のホルモン』と呼ばれ、興味のあることに取り組む時に分泌される。すると集中力が増し、やる気の上昇に繋がるのだ。そうは言っても、宿題のような面白みのない勉強に関心を持つのは難しいだろう。このような気が進まないことに対しては、TRHは分泌されない。言い換えれば、好き嫌いによって活動が左右されるという難点がある。しかし、この短所を克服する方法はないわけではない。実は、興味がなくとも単に「やりはじめる」だけで活発に分泌されるのだ。つまり、嫌でもとにかく始めるのが肝要なのである。

だが、すぐに終わらせたいからといって、一夜漬けで勉強に集中しても内容は頭に残りにくい。ここで気に掛かるのが、記憶力についてである。そこで、物事を覚える仕組みを紹介していこう。

記憶には感覚記憶・短期記憶・長期記憶の3つの種類が存在する。感覚記憶とは、無意識に目に入る風景など、五感で情報を処理して得られるものだ。また、ここで処理される情報には受動的な情報、能動的な情報の2種類がある。前者は、受け身の姿勢になってしまいがちな学校の授業などが当てはまり、あまり記憶に残らない。そして、後者を処理して手に入れた記憶を、特に短期記憶と呼ぶ。これは、朝ごはんの献立や先述の一夜漬けで勉強した内容など、数分から数時間で頭の中から消えてしまうものだ。さらに、何度も意識的に思い起こすと、それは長期記憶に変化する。自転車の乗り方や自宅の電話番号など、ずっと忘れないことが該当する。

では、関心の薄い情報はどのように長期記憶に至るのか。ここで最寄り駅までの道を引き合いに出そう。これは周囲を見つつ、自分の意思で移動するという流れを繰り返すことで覚える。従って、五感を有効に働かせながら、積極的に情報を得ようとするというステップを反復するのが最も大切なのだ。

勉強は、得てして嫌々行いがちになり、興味を持ちにくい。それでも、意欲を持って取り組み、何度も立ち向かうという王道が最善なのだろう。（江口匠）



疲れた時の甘い味方

皆さんは、よく「疲れた時には甘いものが良い」と聞くことがあるだろう。それは本当なのか。ここでは、脳と糖分のあまり知られていない関係に迫ると同時に、勉強時に効果的な糖分の摂り方を紹介したい。

まず、「疲れた時には甘いものが良い」とは事実である。普段の生活において、脳が必要不可欠とする栄養は、酸素とブドウ糖だ。脳はこれらを貯蔵することができないので、常に血液から補給しなければならない。すなわち、脳に糖分がなくなってしまうから、勉強中に疲れてくるのだ。

しかし、どんな糖分でも摂れば良いという訳ではない。注意してほしいのは純度の高い砂糖だ。体内に取り入れると、短時間で著しく血糖値が上がり、身体はこれを異常事態だと感じて必死に下げようとする。それによって、急激な上昇と低下の落差に身体はついていけず、甘いものを食べて逆に疲れてしまう。最悪の場合、記憶力の低下にまで繋がる。大事なのは緩やかな血糖値の上昇なのだ。

とりわけ、果物に含まれる果糖は優れた効果を持っている。バラエティー豊かな果物の中でも、特にお薦めしたいのはバナナだ。吸収速度の違う多様な糖分が含まれているバナナは、時間をおいて次々と消化吸収することができる。栄養を絶えることなく供給できるため、もうひと踏ん張りしたい時に最適なエネルギー源になるのだ。ヨーグルトに混ぜたり、牛乳・砂糖と一緒にミキサーにかけてジュースにしたりと、アレンジも簡単なので摂取もしやすい。

勉強中に、息抜きがてら甘いものをつまんでみてはどうか。ただし、食べ過ぎは禁物だ。（本城ちひろ）

失敗の原因を探る

ここまで勉強は実践と反復が肝心であると述べてきた。実際のところ、学生たちはどのように取り組んで、どういう成果をあげているのだろうか。生の意見を知るために、座談会を行った。

まず、勉強の好き嫌いを聞いてみると、意外なことに半々に分かれた。勉強自体が好きという人もいたが、「やらされている感じがして、全然面白くないんです」とも語る。自ら進んで机に向かうことに苦労しているようだ。

次に、具体的な勉強方法や、学習環境などを語ってもらった。「授業の復習をしてノートにまとめますね。書き出したものを何度も書くことで覚えています」。一般的な手段ではあるが、記憶しやすいそうだ。一朝一夕のうちにできるものではないので、地道に努力を続けるしかないようである。

いつ勉強するかも、重要なポイントの一つだ。多かった意見は「まとまった時間を取れる夜にしています」。テスト前は、早朝や深夜に行うこともあるとのですが、授業の合間や電車の移動中にします」という人もいた。バイトやサークル活動などが忙しく、時間を確保することが難しいのだろう。

また、場所にこだわりを持っている学生も多い。「主に図書館や、学校の自習室に行きます。やはり家だと誘惑が多くてできません。それに、周りが勉強していると自分もやる気が起きます」。中には、静か過ぎる場所は集中するのが難しいですね」との声も。そのため、適度な雑音がする飲食店やリビングの方がはかどるそうだ。

皆が自分なりの勉強方法を取っているようだが、誰もが失敗をしてきた経験も持っている。「いつの間にか寝ていました。自分の興味のない分野だと、眠くなってしまうんです」。得意科目は良いが、苦手科目になると気が進まず、つい後回しになってしまうそうだ。他にも「勉強し始めるのが遅く、あまり問題を解くことができませんでした。もう少し計画性を持てば良かったです」と反省していた。一番の原因は、自分を甘やかすことだという。そのため、どこかで手を抜いてしまうようだ。

では、どうすれば積極的に勉強できるのだろうか。「テストの前に目標を設定することでモチベーションが上がります。達成できた時は嬉しいですね」と語る。上手くいかないこともあるが、次に向けて頑張ろうという気持ちになるそうだ。常に向上心を失うことなく、勉強していく心構えを持つことは大切だ。

大学生である以上、これからも勉強は欠かせない。


反省しつつ失敗談を話し合う学生たち

プロが教える極意とは

前述では、主に学生の勉強法について触れてきた。やはり、多くの人が苦い経験をしているようだ。それでは同じミスを繰り返さないために、打開策を探っていこう。500以上の資格を持つ、中村一樹さんにお話を伺った。

初めに、上手なスケジュールの組み立て方について尋ねると「何事にも言えますが、余裕を持つことが大切です」とのアドバイスを頂いた。もし、一週間の中で毎日、朝から夜まで勉強の計画をきっちり立てたとする。しかし、急用で予定通りにいかなかった場合には、次の日の負担が大きくなってしまうだろう。そこで、中村さんは「最初から2日休みを取っておき、残りの5日で一週間分の勉強をします。そうすれば、急な予定変更にも対応できると思います」と助言してくれた。普段なかなか計画通りに進まない人も、これなら問題が一気に解決するはずだ。

日程を決めたら、次は能率の良い勉強方法について返ってきた。「日記をつけると良いですよ。一日何があったかを振り返るだけでも、集約する力は身に付きます」と中村さんは話す。他にも、自分が見たアニメやドラマを、数百字でまとめるのも効果があるという。

ここで、ちょっとした空き時間の使い方を伝授しよう。「隙間時間は暗記に利用するのがベスト。私の一押しは携帯電話などの録音機能を使って、クイズを作ることです。手本を示すと、『いいくにつくろう』と吹き込み『鎌倉幕府』と答える時間を取ります。その後、違う問題を録音する形ですね。それを繰り返してください」と教えてくれた。実は、暗記は目で覚えるより、耳で聞いた方が良いという科学的データがある。音は無意識に耳の中へ入ってくるため、視覚に訴えるよりも合理的であるそうだ。暇な時に録音テープを流せば、いつでもどこでも勉強できる。これは、意外な空き時間の活用法と言えるのではないか。

それでは以上を踏まえ、テストまでにすべきことを確認しよう。まずは、過去に出題された設問などを利用し、時間を計って本試験と同様に解くことをお勧めする。時間配分など、内容以外の問題点も見えてくるためだ。本番までには「あやふやな箇所を確実にしましょう。知っているのに答えを思い出せない問いを残すのは好ましくないですね」と述べる。直前で新しい部分に手を出さず、今まで勉強したところを見直すことが大切なのだ。

最後に、学生へのメッセージを頂いた。「試験は上手くいく時、いかない時が必ずあります。たとえ結果が失敗だったとしても、落ち込むことはありません。なぜなら、成功の反対は失敗ではなく『学ぶ』だからです。上手くいかなかった時こそ、得られる知識や経験は多いのです」と笑顔で語ってくれた。

学生にとって、勉強は頭を悩ます原因である。バイトや部活など、忙しい生活の中でも、今までに紹介してきた方法を有効に利用していこう。勉強の秋、気持ちを入れ替え、後期を過ごしたい。（松江祐実）


自身の体験を元にテスト対策を語る中村さん

企画・構成　森田　祥乃
レイアウト　江口　匠
取材　田島　大輝
本城ちひろ
松江　祐実

アート日和 美術展こらむ

あこがれのヴェネチアン・グラス

時を超え、海を越えて

サントリー美術館（六本木）
開催期間：開催中～10月10日
開館時間：10時～18時
（金・土・10月９日は20時まで開館、入館は閉館の30分前まで、今後の状況により変化する場合有）
休館日：毎週火曜日
展覧会公式サイト
http://suntory.jp/SMA/

サントリー美術館は今年で開館50周年を迎えた。そこで当館では、ミュージアムメッセージ「美を結ぶ。美をひらく。」を掲げ、４回に渡り記念展を開催している。第３弾の今回は、「コーニング・ガラス美術館特別出品あこがれのヴェネチアン・グラス」展である。

ヴェネチアで、1450年頃に「水晶のような」を意味する新しいガラス素地「クリスタッロ」が開発された。新素材を活かしたヴェネチアン・グラスは、高い透明度と、施された装飾の美しさでヨーロッパ中を席巻したのだ。

展示は５部構成で、ヴェネチアン・グラスの興隆から現代までの変遷を辿る。落ち着いた雰囲気の中、まずはヴェネチアのガラス職人の技巧を眼にした。特に、レース編みをガラスで再現した「レースグラス」と、熱いガラスを水に浸け、意図的にヒビを入れる「アイスグラス」は異彩を放つ。規則的で精巧な紋様と、自然の赴くままに刻まれた意匠。同時代に相反する技術を求めた名工たちのセンスと探究心に驚かされる。

欧州中で人気を集めると、作品や技法は次第に流出していった。しかし、ヴェネチアの高い技術は長い間真似できなかったという。中でも、龍の形を模した装飾「ドラゴンステム」は、緻密さが格段に優れていたことが一目で分かる。

日本には、16世紀からヴェネチアン・グラスがもたらされてきた。後の、和ガラス誕生に影響を与え、代表作『藍色ちろり』の柄はレースグラスに似せて作られた。製法を知らない当時の職人たちが、試行錯誤を重ねて再現しようとした姿が目に浮かぶ。

このようにヴェネチアン・グラスが誇った隆盛も、18世紀後半から陰りを見せ始めた。だが、19世紀半ばには再び活気を取り戻し、今なお制作を試みる者が後を絶たない。それは、繊細で優美な職人技が輝きを失うことなく人々を魅了しているからだ。（本城ちひろ）

多彩な妙技が光る器


アイスグラス蓋付ゴブレット
ネーデルラント　16世紀末
コーニング・ガラス美術館蔵
The Corning Museum of Glass, NY, USA
Gift of the Ruth Bryan Strauss Memorial Foundation (79.3.187)

CAMPUS GUIDE

●三曲研究部絲竹会
「第四十回　定期演奏会」
日時：10月22日（土）
開場　13時30分
開演　14時
場所：新宿文化センター　小ホール
料金：無料
内容：こんにちは。私たち三曲研究部絲竹会は箏・三味線・尺八の演奏をしています。今回は節目で、四十回目の定期演奏会です。お時間のある方はぜひいらしてください。邦楽の世界を存分に堪能できますよ。

●観世会部
「自演会」
日時：10月2日（日）
場所：杉並能楽堂
料金：無料
内容：同じ関東観世流学生能楽連盟に所属する早稲田・明治・法政・國學院・日本大との合同舞台です。着物と袴をつけて、扇を持って舞う姿が見られますよ！

●落語研究会
「大学祭めじろ寄席」
日時：11月4日（金）～6日（日）
場所：西1号館
料金：無料
内容：大学祭期間中、3日間ノンストップで寄席を行っています。出入り自由なので、ぜひお越しください。

●スカイサウンズジャズオーケストラ部
「ユニオンライブ」
日時：10月2日（日）
場所：小岩アーバンプラザ
料金：無料
内容：獨協・横浜市立・神奈川・成蹊・学習院の5大学によるビッグバンドジャズライブです。超ビッグゲストも登場と、盛りだくさんの内容となっております。ぜひお聞きください。

安定感欠く

ボウリング部

進歩の糧に

一球一球に集中し、スコアを伸ばしていく三木選手

理想的な前半戦

8月22日から24日まで、立川スターレーンにて、関東学生ボウリング選手権大会が行われた。大会初日は二人制で争われ、6ゲームの合計スコアで勝敗を競う。白井健一主将（営3）は試合前、「練習してきたことを本番に活かして、良い結果を出せるように努力します」と抱負を述べた。本学からは10チームが出場し、その中でも存在感を示したのは三木明選手（生2）、並木栞選手（日1）ペアである。

試合が始まると、序盤の2フレームにおいて三木選手と並木選手がいきなりストライクを獲得し、順調なスタートを切る。それ以降は両者共にスペアを連発し、安定して得点を挙げていった。終盤になるにつれて、並木選手がさらに調子を上げていく。第8フレームから全てストライクを取り、彼女の投球に観客が酔いしれた。

そして、続く第2ゲームも好調を維持し、次々とピンを倒していく。その結果、両選手共に200点を超える高得点を叩き出した。さらに、午前を締めくくる第3ゲームにおいて、並木選手が観衆を沸かせる。調子を落としていく選手が多い中で、序盤から素晴らしいコントロールを見せ、7連続ストライクを記録。それに加え、女子選手にはハンディキャップで15点与えられるため、最終スコアは293点という驚異的な数字を残した。

一転して…

休憩を挟み、午後に行われた第4ゲーム。三木選手は、合計6つのストライクを重ね、着実な試合運びを見せる。ここで並木選手も波に乗りたいところだったが、ブレーキが掛かり、147点に終わる。その後は両選手が精彩を欠き、前半と一変した展開になった。試合後、三木選手は「出だしは、個人的に満足のいく結果だったと思います。しかし、後半になってコントロールが定まらなくなりました」と悔しい表情を浮かべながら振り返る。同ペアは善戦したが、7位と惜しくも入賞を逃した。

また、翌日に開かれた五人制において、本学Aチームが10位に入り健闘を見せる。その一員であった並木選手は、2日間の平均スコアで全選手中22位に入り、上位32名で戦うマスターズ戦に出場。そこで彼女は、日本代表メンバー、選手権覇者などの並みいる強豪を打ち破る。激闘の末、1年生ながら見事に優勝を飾った。今回は、個人が結果を残したが、チームとして本学が好成績を挙げるためには、部全体の底上げが必要になる。日々の練習から競争力を高め、今後の飛躍を望む。（飯村渉）

成長の証見せる

Gakushuin Sports

努力で掴んだ白星

1部の壁

女子ラクロス部

軽快な身のこなしと熟練のクロス捌きで、相手の守備を振り切る小堀主将（左）

8月24日、本学北グラウンドにて関東学生ラクロスリーグの1部Bブロック第2戦が行われた。相手は今年昇格したばかりの東洋大だ。本学は先制したものの、その後試合を振り出しに戻される。しかし、後半に入って勝ち越しに成功し、6―2で勝利の女神は彼女たちに微笑んだ。

満を持して

本学は、初戦の青山学院大戦を4―5で惜しくも落としてしまっている。しかし、気持ちを切り替え、この日まで充実した練習ができたそうだ。試合前に小堀優子主将（政4）は「今までやってきたことがどれだけ通用するのか試したいと思っています。相手に力の差を見せつけたいです」と意気込みを語ってくれた。

我慢の展開

両チームの熱い声援が響き渡る中でホイッスルが吹かれ、試合が始まる。開始早々、本学は相手の素早いパス回しに対応できずにいた。瞬く間にゴール付近に運ばれ、いきなりピンチを迎えてしまう。それでも、固い守備でこれを凌ぎ、反撃に出る。的確にボールを繋いでいくと、河合貴美選手（政4）がDFを抜き去り、あっという間に先制点をもぎ取った。それからも流れは本学に傾く。前半10分には小堀主将が味方選手からのパスを受け取る。そして、相手の意表を突きゴール裏から飛び出してシュート。ボールはそのまま枠を捉え、2点目を獲得した。

点を重ねて一気に突き放したいところであったが、勝負はそれほど甘くはなかった。積極的に敵陣に攻め込み、何度もシュートを放つが外れてしまう。反対に前半24分、守備が手薄になった一瞬の隙を突かれ、1点を返されてしまった。さらには、相手の速攻で再び失点の危機に瀕する。ここで前半が終了し、時間に助けられる形となった。10分間のハーフタイムの間に小堀主将は守備陣に「よく頑張ってくれていると思う。だけど、攻撃のチャンスが来るまでもう少し待ってほしい」と声を掛け、チームの士気を高めたという。

勝敗の分岐点

主将の言葉に奮起し、ゲームの主導権を握りたい後半。しかしながら、前の1点で勢いづかせてしまったのか、幾度となくシュートの機会を与えてしまう。本学も鉄壁の守りでこれをかわし、オフェンスに転じて突破口を開こうとするも、得点には至らない。その後も、試合は一進一退の攻防が続いていく。

後半12分、ついに均衡が破られる。日南田智佳選手（政4）、伊藤綾乃選手（法4）らが懸命に守る間を相手に上手く掻い潜られてしまう。その刹那、シュートボールがキーパーを襲う。無情にも、ゴールに突き刺さり同点に追い付かれてしまった。だが、このまま終わる本学ではない。直後に河合選手が、体勢を崩しながらも値千金の勝ち越し点を決めた。攻守が再び噛み合い始めると、続く14分には伊藤選手が相手の守備を巧みにすり抜け、鋭いシュートを繰り出す。さらには、上本彩可選手（政3）と兵頭舞選手（英2）の追加点により雌雄を決する。最終的に、スコア6―2で勝利した。

試合後に小堀主将は「以前は得点源が偏っていたが、今日は若手の選手も点に絡んでいました」と話す。チームの新たな強みが見えたこの一戦。他校にとっては脅威となるだろう。彼女たちはこれからも進化し続ける。（中村紀一）

ロッカールーム

本紙・小柳が辿る本学アスリートの軌跡

剣道部女子

前田　千晶主将（政４）

彼方の栄光へ

本学の剣道は、明治時代から心身の鍛錬を目的として行われてきた。そして昭和33年、正式に部活動が発足する。今回は、歴史ある剣道部の女子主将を務め、東京都女子学生剣道選手権大会において、3位入賞を果たした前田千晶さん（政4）にお話を伺った。

幼稚園の時に兄の影響で剣道を始め、高校まで続ける。大学に入学したら辞めるつもりだったというが「先輩に誘われ、新歓期間の公開稽古を見に行きました。とても楽しそうに練習している様子を見て、今後も続けようと決意しました」と意気込み入部する。

そんな前田さんにとって印象深い大会は、2年生の秋に行われた関東大会の団体戦であった。全日本を懸けた戦いに次鋒として出場。1つ前の対戦では引き分けてしまったが、次の試合で彼女は幸先良く一本を奪った。だが、すぐに取り返され、同点となる。最終的に逆転を許し、後続の選手に負担を掛ける。悪い流れを引きずり、本学は敗北し、全日本出場を果たせなかった。「流れを左右する試合で負け、先輩に迷惑を掛けてしまいました。全国を逃したことに、責任を感じています」と悔しい思い出を回想する。

剣道を続ける中で、一番成長したところはメンタル面だそうだ。自分に自信をつけるため、苦しいことにも取り組んできたが、心が折れそうになる時もあった。そんな時、コーチに「相当な覚悟を持たないと、お前の気弱い精神は簡単に変えられない」と言われたという。「その言葉があったから、苦手なことから逃げずに向き合え、心的な部分が強くなれました。そのおかげで、土壇場でも自信を持つことができたのです」と振り返る。

大変な思いをしてきたが、それだけではなかった。「同じ目標を持った仲間と一緒に、本気になって剣道をできるのがとても嬉しかったです」と話す。同期や先輩、後輩という仲間の存在がとても大きいようだ。

前田さんは剣道について「努力の結晶です」と語る。これからの目標である全日本出場と定期戦全勝に向けて努力することで、輝かしい未来が待っているだろう。（小柳拓真）

さらなる高みへ

スカッシュ部

劣勢を跳ね返し、２回戦で勝利した岩瀬選手

全国への挑戦

8月21日にさいたまSQ―CUBE、22日から26日に横浜SQ―CUBEにて、第34回関東学生スカッシュ選手権が開催された。個人戦となる今大会はトーナメント方式で行われ、男子はベスト8、女子はベスト4でインカレに進出できる。試合前、服原甲弥主将（政3）は「各選手が調子を上げてきているので、一人でも多く上に進めるよう頑張ります」と頼もしいコメントを残す。

初日は1、2回戦が行われた。相手を圧倒し、初戦で大勝した加藤渉選手（物3）は第2試合に駒を進めた。しかし、序盤は相手の猛攻に押される。第2セットからは、両選手が互角の展開を見せるも、最後は加藤選手の体力が切れる。1セットも取れず敗北を喫し、彼にとって悔いの残る試合となってしまった。

続いて、本学の注目選手である岩瀬直樹選手（済2）が期待を背に登場。1回戦は相手の打球に素早く反応し、隙を与えることなく圧勝する。続く第2戦でも、良い流れを保ち11―4で先取する。だが、徐々に集中力が切れ始め、思い通りの動きができない。その後、セットカウント1―1とされ、勝負は最終局面へ。前半は接戦になるものの次第に劣勢になっていき、一時は4点リードされる。しかし、そこから足を活かした本来のプレーを取り戻し、次々に得点を重ねて見事に逆転勝利を収めた。試合後、岩瀬選手は「素直に嬉しいです。相手が上級生で不安でしたが、良い勉強になりました」と自信に満ちた表情で話した。

大きな一歩

6日間を通し、本学は躍進を見せる。男子では服原主将がベスト8まで勝ち上がった。女子では山崎絵莉選手（心4）が2位に輝き、両選手共にインカレ出場を決めた。

服原主将は「この試合での経験を活かし、これからの公式戦に繋げていきたいと思います」と抱負を語る。個人が目標を持って臨んだ今大会。結果に納得できなかった選手も、今回得たものを以後に結び付けることで、過去の自分を越えるに違いない。（小柳拓真）

TOPICS

その他の試合結果

【水泳部競泳部門】▼第84回関東学生選手権大会▽男子200mフリーリレー優勝▽男子400mフリーリレー　優勝

【硬式野球部】▼秋季リーグ戦▽対成蹊大　2―4　負け

【サッカー部】▼第44回東京都大学サッカーリーグ戦▽対創価大　1―1　引き分け▽対成城大　3―1　勝ち

【弓道部】▼全日本学生弓道選手権大会▽男子団体予選敗退▽女子団体　予選敗退

【男子ラクロス部】▼関東学生ラクロスリーグ戦▽対帝京大　9―2　勝ち▽対神奈川大　5―7　負け

【馬術部】▼学長杯▽小障害　1位

デスクの片隅

大学新聞社に入り、1年と2カ月が過ぎようとしている。振り返ると、これまで様々な取材を行ってきたものだ▼インタビュー相手は本学の運動部員や教授、社会人など多方面に渡る。彼らは常に、輝かしくも印象的な台詞を聞かせてくれた。それは、試合で得点した際の喜びの言葉であったり、自身の研究内容について述べた情熱的な発言だったりする。取材後には、それらを繋ぎ合わせ文章を組み立てる。取材相手の語ってくれた思いを文にまとめることで、読者に内容の充実した記事を届けてきた▼しかし、完成した文章を見直してみると、どこか物足りない。取材時に受けた感動を彷彿とさせる文面とは言えない。もっと良い表現があったのではないかと何度も後悔し、未熟さを痛感してきた▼編集作業を行えるのもあと約1年。いつの日か、一人ひとりの魅力を伝えきれるようになりたい。そのためには、ひたすら文を書き続けるしかないだろう。これからもためらうことなく試行錯誤を繰り返して、日々精進していこう。（流）